



まがたま

一人一人が輝く学校・地域と共に歩む学校

令和6年 6月28日

豊玉中学校だより No. 14

【E-mail】shimura.osamu@nerima-ky.ed.jp

【URL】<https://www.nerima-ky.ed.jp/toyotama-j/>

令和6年のカレンダーももうすぐ半分になります。運動会で始まった6月ですが、あっという間に終わり、来週からは7月、夏季休業まで残すところ3週間あまりとなりました。

冒頭に触れた運動会ですが、生徒たちの全力で競技に取り組む姿、声の限り応援する姿、心を合わせ学年を超え、伝統をつなぎ踊るダンスに感動し、大成功の一日でした。たくさんの保護者、地域の方々にも参観していただきありがとうございました。その後も定期考査やセーフティー教室、小学生の中学校体験など盛りだくさんの6月でしたが、生徒が時に真剣な眼差しで時に生き生きとした笑顔で生活する姿に、順調に1学期を過ごしてくれているなど安心する毎日が送れています。

今年は例年より14日遅れの梅雨入りとあって、体調を崩す生徒が少なかったことも良かったと思っています。されど、梅雨入りした中、気温と湿度の高さによって熱中症の心配が増えます。こまめに水分補給をさせるなど学校でも注意していきませんが、ご家庭でも水筒を忘れずに持たせるなどご注意いただきたいと思っています。

また、6月は東京都教育委員会の定めた「ふれあい月間」でした。生徒が安全に安心して登校できるようにとの気持ちを込め、全校朝礼にて次のような話をしました。

令和6年度の学校生活が始まり、約2ヶ月が経ちました。新しい学年、学級での生活に慣れてきた頃ではないでしょうか。先日の運動会では、最後まであきらめず精一杯競技する姿や、ハカやフラッグ、ルパン三世の演技で学年を超え、3つの学年が生徒一丸となった演技にとっても感動しました。改めて豊玉中学校の生徒のみなさんの底力を感じる素晴らしい運動会でした。当日の講評で話をしましたが、改めて気持ちを伝えたくて繰り返しになりますが運動会の話をしました。

さて、東京都教育委員会は6月、11月、2月を「ふれあい月間」と定めています。ふれあい月間とは、いじめや暴力などの問題行動や不登校などを未然に防止し、生徒のみなさんが安心して安全に学校生活を送れるような取組を強化する期間です。そこで今日は2つの話をします。

1つ目は、「想像力を養おう」という話です。嫌がることや悪口を言う、暴力をふるう、持ち物を汚したり壊したり隠したりする等といった「悪意」のある言動は、相手を不快にさせる「いじめ」と言えるでしょう。あるいは個人に対してでなければ「迷惑」となるでしょう。しかし、悪意のない言動であっても「いじめ」や「迷惑」につながることもあります。だからこそ、自分の言動が相手にどのように伝わるのか想像してみたいのです。相手の立場になって、あるいは自分が受ける側だったらと想像し、自分の言動に注意してほしいと思います。また、自分の言動がどのような結果になるのか、どのような影響を与えるのかを想像することも大切です。昼読書を活用し読書をするによって、作者や主人公の気持ちを想像してみたり、先見の時間に先のことを想像してみたりして、想像力を養っていきましょう。

2つ目は、「助けを求めよう」という話です。いじめや暴力を受けたとき、辛いこと悩み事ができたとき、自分一人で解決できることなら良いのですが、自分だけでは難しいこともあるでしょう。そんなときは誰かに助けを求めてほしいのです。友だちに相談して気持ちが楽になることもあると思います。しかし、生徒だけでは解決できないこともあります。そんなときは家族、先生に話をしましょう。さらに、スクールカウンセラーや心のふれあい相談員も学校にいます。信頼できる誰かに助けを求めましょう。直接話しにくいならば、生活アンケートやふれあいアンケートを利用することもできます。また夢手帳に書いたり、手紙を書いたりすることもできます。決して頑張りすぎず、一人で思い悩み、問題を抱え込むことなく、我慢せずに助けを求め相談してください。今日は皆さん一人一人が安心して安全に学校生活を送るために、「想像力を養おう」「助けを求めよう」という話をしました。以上です。

<全校朝礼校長講話より>

第78回運動会 ～維新伝心～

※ 維新伝心は、今年度の運動会スローガンです。

運動会実行委員長 主任教諭 山口 弘子

6月1日(土)に、第78回豊玉中学校運動会が、晴天の中、行われました。スローガンにもあるように、今までの伝統を引き継ぎながらも新たな演技に挑戦し、前進していこうという思いのこもった運動会でした。

今までの伝統とは、「どの競技にも正々堂々と全力で取り組む」「学級での団結を図る」「全力で応援しみんなで楽しむ」ことです。特に今年は、縦割り学級での応援が素晴らしく「下級生が頑張っているから3年も力をもらえた」「席に戻ってくると先輩たちが皆で拍手をしてくれて嬉しかった」など運動会ならではの学年を越えた交流ができたと思います。



また、豊玉中学校の恒例のダンスでは、始まる前に生徒と先生たち全員で1つの円陣を組み、より気持ちが一つになりました。初めて挑戦した全校男子による「ハカ」、伝統でもある全校女子による「フラッグ」、そしてトリを飾る「ルパン三世」。どの演技も見ごたえがあり、生徒が作り上げた踊り、生徒同士で教え合い学び合った演技が輝いていました。来年度も生徒の手で作り上げる運動会を楽しみにしています。

豊玉中学校セーフティ教室

～若者を犯罪集団から守るための授業～

副校長 志村 修

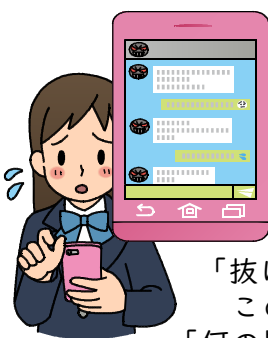
6月20日(木)に今年度のセーフティ教室が表題のテーマで行われました。

今年度のセーフティ教室は、東京都と警視庁組織犯罪対策部暴力団対策課暴力団排除第一係、東京弁護士会が、都内の中学生向けに立ち上げた特別プログラムで実施いたしました。

(都内の公立中学校はおよそ600校ありますが、本プログラムの実施はまだ12校だそうです。)

さて、内容ですが、とても衝撃的なものでした。最近のニュースにも頻繁に出てくる「闇バイトの実態」、「受け子・出し子などの犯罪に陥るからくり」といった内容を、事実にもとづいた生々しいお話でした。犯罪の背後には、強面・半グレといった昔ながらの人相の人たちもいますが、接点となる人たちの人相は「どこにでもいる地元の先輩風」といったお話もありました。

そして、犯罪の入口はやはりSNS。新たに知り合った人等から、バイトと称してメールやラインで「△日□時に、○○に行くことができますか?」と問われたらどうしますか? 多くの人が「OKです」「大丈夫です」と返信してしまうのではないのでしょうか。しかし、そのあとに指示が……。指示された場所に出向いて、指示された物を受け取ったら「受け子」成立です。そのとき犯罪に加担してしまったことに初めて気づき、「もう関わりを辞めよう」と連絡を入れると、次の返答。



「もう、犯罪に関わった事実は消えないよ。なのに、自分だけ抜けるの?」

「抜けたとしても犯罪をした仲間には変わらないよ。」という囁き。

この場面を聞いただけでも「我が子は大丈夫だろうか……」と不安になりました。

「何の疑問をもたず、どんな子もこんなメールで安易に動いてしまうのだろうか……。」

と考えもしました。

「我が子はまだ中学生だから大丈夫。まさか中学生が……。」と思う人がほとんどと思いますが、この特殊詐欺の受け子・出し子といった末端の加害者の多くは、中高生・大学生の年齢だそうです。

さらに、撮影した写真を恐喝材料に使うお話もありました。

特に怖かったのは、お店等で友達と撮った楽しげな写真をインスタグラム等で公開する人のお話。楽しげに写っていた写真の背景に、自分が写っていたことをネタにして脅迫・恐喝をする犯罪手口。何気なく写真をアップして、仲間内で楽しむことはいけないことではありませんが、このような手口やそこで浮き彫りになる個人情報(どこの学校に通う生徒か、どの辺に住んでいる人かなど)を悪用する集団もいるということでした。背筋がぞっとするお話です。

残念なことですが、他人の写真を勝手にSNS上であげてトラブルになるケースは中学校の現場でも起こっています。スマートフォンを契約し、SNSを使用する立場になった人が背負う義務・モラル、そして背負うことになる責任をあらためて認識する機会にしてほしいと思います。

